

## 8「現実主義」理論の系譜

「ホッブスのな世界観」→ realism (現実主義) = 古典的リアリズム → 性悪説的  
弱肉強食の世界、主権国家が世界のアクター  
アメリカの教科書には、UN は殆ど出てこない  
UN は国家主権を超えるモノではない

国際政治を軍事力 (force) / パワー (power) → 国力、を中心とする権力闘争とみなす  
→ keyword は国益 (national interest = 国家の関心事)  
↑ 目に見えない、人によって違う、曖昧性、連続性  
その国の政治行動と必ず結びつく  
国民の生命と財産を守る ← 国益のベース  
例：イラク派遣 → 対米協力 → … → 日本人の生命財産を守る (風が吹けば桶屋が儲かる)

国益を考えると、イデオロギー (政治的価値) を排除することができる  
→ 客観性を持つことができる。

もう国益だけを考えている国はない → 古典的リアリズムから、neo-realism へ  
国際社会はアナーキーであり、国家は自助によって安全を確保する。  
↑ これだけでは古典的  
国家は、生き残りのため国益を追求し、対外的な努力をする。 ← ここが新しい

「カント的な世界観」→ idealism/utopianism (理想主義) = 古典的リベラリズム → 性善説的  
リベラリズムの定義は、時と場所によって変化する。  
→ 寛容的な (様々な人の意見を聞く)

古典的リベラリズムから、neo-liberalism へ  
☆ 国家は互いに協調できる  
☆ 各分野でレジーム (regime = 体制) が形成できる  
☆ これによって、世界が安定する。  
→ 「スミスのな世界観」に限りなく近い

## 9 世界システム論の考え方

国際政治の理論化の大きな枠組み  
歴史的視点、歴史を比較する視点が大切 → 過去 500 年の歴史を見る  
国別にとらえるのではなく、ある共通な (経済的) システムがあるのでは…

### 1 ウォーラーステインの世界システム論

マルクスの歴史観も

### 2 モデルスキーの世界システム論

超大国の研究→近代 500 年におけるグローバル政治システムをとらえる  
global power (超大国)/hegemonic power (覇権国家)

覇権国家 VS 挑戦国

16C ポルトガル VS スペイン

17C オランダ VS フランス

18C イギリス VS フランス

19C イギリス VS ドイツ

→ Pox Britannica

20C アメリカ VS ソ連

→ Pox Americana

教訓 一国が永久に大国であることはない

教科書 63P を確認する

経済大国でなければ、軍事大国になれない。

軍備はモノを生まないの、やがて衰退する。

→覇権国家と挑戦国は対決することなく、新しい国が台頭してくる。

21 世紀の超大国と Pox Americana のゆくえ

→いくつかのシナリオ

短期(10～20年)、中期(50～60年)、長期(100年)ではどうか?

10 国際レジーム論と今日の国際政治

レジームとは→枠組み

☆国際貿易レジーム(自由貿易の促進)→ GATT → WTO

ラウンド→円卓会議

農業も自由化しよう!!

☆核兵器管理レジーム→ NPT(核不拡散条約)

CTBT(包括的核実験禁止条約)

☆通貨協調レジーム→ IMF/G8

1985 年 プラザ合意が有名

☆環境保全レジーム

☆海洋秩序レジーム→海のルールをどうするか

様々なレジームが存在している。

→「スミスのな世界観」、ネオ-リベラリズムの視点

問題点

**High-politics** → 高度に政治性がある問題 (安全保障、軍事、国益)

→ こっちで、レジームが機能するか?

**Low-politics** → 経済、通商、文化、社会